

学生委員会

学生委員会は、主として学生の就職支援、学生指導などを業務とする。

1. 就職支援

平成 29 年度は、キャリア・センターの本格稼働を見据えて業務を精選した。これは、本学部の学生においても同センターの活用が定着し、同センターとの連携が求められる局面になったからである。この流れを受けて、従来は学部の学生員会が主催していた「就職内定者セミナー」をキャリア・センターの行事に移管した。また、OBOG 懇談会については、男女共同参画が一般化し、男女ともライフワークバランスが意識される時代にあって、主として女性が活躍する企業で勤務する本学部の卒業生に焦点をあてた。就職支援の概念を拡張し、全学レベルで推進される就職支援の細かなプロセスは、同センター主導とする一方で、学部においては卒業後の働き方、生き方の多様性を担保しつつ、さまざまな可能性が示唆できるよう行事の精選と運用を進めた。

大幅な改革となったのが、OBOG 懇談会である。女性の活躍を推進する企業（東京フード、結城信用金庫、カスミ）の人事担当者と本学部の卒業生を招聘し、働き方、生き方の変化と今後の展望を検討した。キャリアを積む卒業生から「こんな歳まで働いていると思わなかった」という実感のこもったコメントが相次いだほか、若手卒業生は「私もキャリアを積んで成長したい」とコメントしたのが印象的だった。

このほか例年どおり、企業の合同説明会に参加する学生への便宜を図り、バスを借り上げて現地への往復を支援した。以前に比べ民間企業への就職の関心が高まり、企業の採用意欲の高まりも相まって、学生の挑戦も多様化している。本学から現地まで往復 200km に及ぶ距離を克服すべく、バスを用意して学生の就職支援を展開した。

2. 学生指導

平成 28 年 4 月から施行された障害者差別解消法に基づく合理的配慮への対応が本格的に求められる時期を迎えた。学生委員会としては、まず多くの学生に対し、多様な相談窓口として機能することを伝え、続いて全学的な動きとの連携、組織的な対応に向けた検討を進めた。具体的には、保健管理センターやなんでも相談室、そしてバリアフリー推進室の運営方針を周知するとともに、各部署との適切な連携を進めた。組織的な対応については、合理的配慮のために必要な情報の共有と教員の適切な対応が求められるが、こちらは教務委員会や学部長のリーダーシップとも関係が深いので、委員会として単独で行動することばかりではなかった。

こうした状況から、学生委員会が機能すべき事柄を再考すべく、先進校を視察した。富山大学では、発達障害を持つ学生の修学や就職、そして就職後の支援を展開する。すでに 10 年超の実績があり本学が制度設計する際にもモデルとしている。そこで富山大学の取り組みの様子

を視察することで、本学部で求められる実践とは何か、問題意識を明確にすることができた。属人的な対応が求められるというものの、組織への還元と共通理解のスパイラルアップによって、組織的な対応力が向上することは間違いない。そのための仕組みづくりに学生委員会の活動があるとの認識を新たにすることができた。

3. その他

学部入学生の保護者を対象に、保護者説明会を実施している。新学部発足 2 年目は、法律経済学科と人間文化学科の説明会会場を統一し、現代社会学科と 2 会場での実施とした。今日の大学では、学部生が授業で IT 機器を活用することも不思議ではない。学生の心配や不安に対応する窓口も豊富に存在している。授業料減免の制度運用にも変化があり、学生生活の経済的な側面への関心も高い。学部長をはじめ関係する委員の教員が多数出席し、こうした幅広い関心に応える説明会を実施した。

同窓会、後援会との連携を図るうえで重要なのが、後援会総会である。本年度は 6 月に開催し、保護者 200 名程度の出席があった。

学部 3 年生に対し、成績優秀者表彰を実施した。今年度は全学で運用の見直しもあり、計 14 名を表彰した。

平成 29 年度学生委員会委員長：今村一真